
QA35 今後妊娠しても大丈夫でしょうか

人間を対象にした調査では、原爆被爆後に妊娠して生まれた子ども（2世）については、今のところ、発がんの上昇や遺伝子の変化などの影響は確認されていません。原爆被爆者の子どもの染色体異常を調べたところ、被ばくしていない人と差がないと発表されています（財団法人 放射線影響研究所のウェブサイト参照）。

動物実験では、数シーベルト相当*の高線量を受けた親動物から生まれた子どもに、遺伝子の変化がごく低い頻度（一個の遺伝子に注目して調べると、1万匹に1匹程度の割合で遺伝子に変化が見つかる）で見られることが知られています。一方、放射線被ばくがない場合でも、数パーセントの新生児に何らかの遺伝的異常があることが知られています。今回の事故に関連して受けた線量は多くないため、放射線被ばくが直接の原因で新生児に何らかの遺伝的異常が現れるとは考えにくいです。

※：シーベルトという単位は動物には使いませんが、ここでは人間との比較でわかりやすいように、シーベルトを使いました。なお、1シーベルトは1,000ミリシーベルトです。

関連リンク：

（公財）放射線影響研究所「原爆被爆者の子供における放射線の遺伝的影響」

<http://www.rerf.or.jp/radefx/genetics/geneefx.html>

出典：放射線医学総合研究所ウェブサイト「放射線被ばくに関するQ&A」より作成

出典の公開日：2012年4月13日

本資料への収録日：2012年12月25日

改訂日：2015年3月31日